

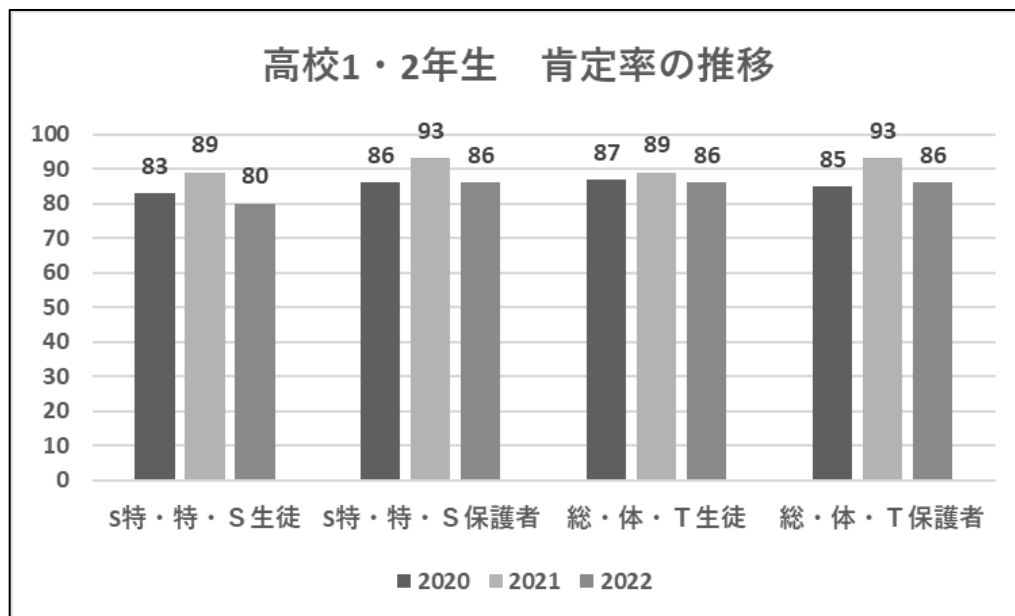
2022年度 学校評価アンケート 高校1・2年生 集計結果				2023年3月30日			
質問項目	・そう思う(4) ・ややそう思う(3) ・あまりそう思わない(2) ・そう思わない(1) 肯定率:(4)・(3)の和／(4)～(1)の和	肯定率					
		高校生		保護者			
		S 特 ・ 特 進 ・ S	総 進 ・ 体 育 ・ T	S 特 ・ 特 進 ・ S	総 進 ・ 体 育 ・ T		
1	本校に入学してよかったと思っていますか。	83%	88%	95%	92%		
2	本校生であることに自信と誇りを持っていますか。	64%	80%	80%	86%		
3	自分の目標や目的意識を持って学校生活を送っていますか。	84%	84%	82%	78%		
4	挨拶・服装・時間等、ルールやマナーを守れていますか。	88%	89%	91%	94%		
5	授業内容を理解できていますか。	71%	75%	74%	68%		
6	課題(宿題)等の難易度は適当ですか。	76%	87%	84%	82%		
7	生徒の能力・個性に応じた適切な指導が行われていますか。	75%	82%	82%	83%		
8	部活動は活発で、活動内容も充実していますか。	85%	85%	82%	86%		
9	様々な活動を通して、達成感を得たり仲間意識などが高まったりしていますか。	84%	86%	87%	85%		
10	キャリア教育、(中高一貫・S特・特進生についてはキャリア・フロンティア)の内容は充実していますか。	88%	89%	89%	90%		
11	生徒一人ひとりの人権に配慮した適切な指導が行われていますか。	83%	84%	87%	86%		
12	生徒面接やスクールカウンセリング等、心身の健康を維持するための支援が適切に行われていますか。	81%	84%	84%	83%		
13	本校の教育環境(施設・設備面等)は、充実していますか。	94%	94%	95%	96%		
14	本校において、良好な人間関係を築けていますか。	90%	91%	90%	91%		
15	教育目標や教育方針等に基づいた教育が行われていますか。	82%	84%	90%	89%		
16	教育目標や教育方針等について、教職員の共通理解・意思統一がされていますか。	65%	84%	83%	87%		
17	各学年・部・教科等の情報共有と教職員の協働体制が確立し、組織としてうまく機能していますか。	75%	86%	84%	87%		
18	自分の進路を実現するための体制(教育課程・少人数授業・習熟度別授業・補習体制等)が整っていますか。	89%	90%	86%	88%		
19	本校の学力向上に向けた様々な取り組みが、進路実績等の成果につながっていますか。	75%	88%	87%	88%		
20	教職員は、資質向上(教材研究・授業方法の工夫・研修会への参加等)に努めていますか。	75%	83%	86%	87%		
21	本校の学校行事は、適切な内容で充実していますか。	78%	86%	88%	91%		
22	生徒・教員相互の信頼関係を大切にした教育や指導が行われていますか。	80%	88%	88%	88%		
23	クラスや学校での様子などを、家庭で保護者に知らせていますか。	77%	81%	76%	74%		
24	学校や学習塾への訪問・各種説明会・オープンスクール等、本校の広報活動は計画的かつ効果的に行われていますか。	89%	90%	92%	93%		
肯定率・平均値の平均		80%	86%	86%	86%		

2022 年度高校 1・2 年生（S 特・特進・S コース、総進・体育・T コース）総括

1. 生徒・保護者の過去 3 年間（2020 年～2022 年）の全質問項目の肯定率（それぞれの質問に対してそう思う、ややそう思うと回答した割合）の平均（％）の推移 （数字は左から 2020 年、2021 年、2022 年のデータ）

S 特・特進・S 生徒：83・89・80 S 特・特進・S 保護者：86・93・86

総進・体育・T 生徒：87・89・86 総進・体育・T 保護者：85・93・86



*この調査においては、肯定率 80%以上は高い評価であると判断する。

*2021 年度は、前年に比べて、すべてのコースの生徒・保護者の肯定率が上昇した。

*2022 年度は、前年に比べて、すべてのコースの生徒・保護者の肯定率が低下した。低下の原因については、以下の 2・3 で分析する。

2. 高校 1・2 年生の質問項目 1、5、7、8、19、21 の過去 3 年間（2020 年～2022 年）の肯定率（％）の推移（数字は左から 2020 年、2021 年、2022 年のデータ）

(1)「本校に入学して良かった」 S 特・特進・S：84・89・83 総進・体育・T：92・89・88

(5)「授業内容の理解」 S 特・特進・S：67・68・71 総進・体育・T：69・78・75

(7)「能力・個性に応じた適切な指導」 S 特・特進・S：79・84・75 総進・体育・T：83・80・82

(8)「クラブ活動の満足度」 S 特・特進・S：78・91・85 総進・体育・T：80・86・85

(19)「進路実現等に向けた学力向上」 S 特・特進・S：95・87・75 総進・体育・T：90・89・88

(21)「学校行事の充実」 S 特・特進・S：71・78・78 総進・体育・T：81・86・86

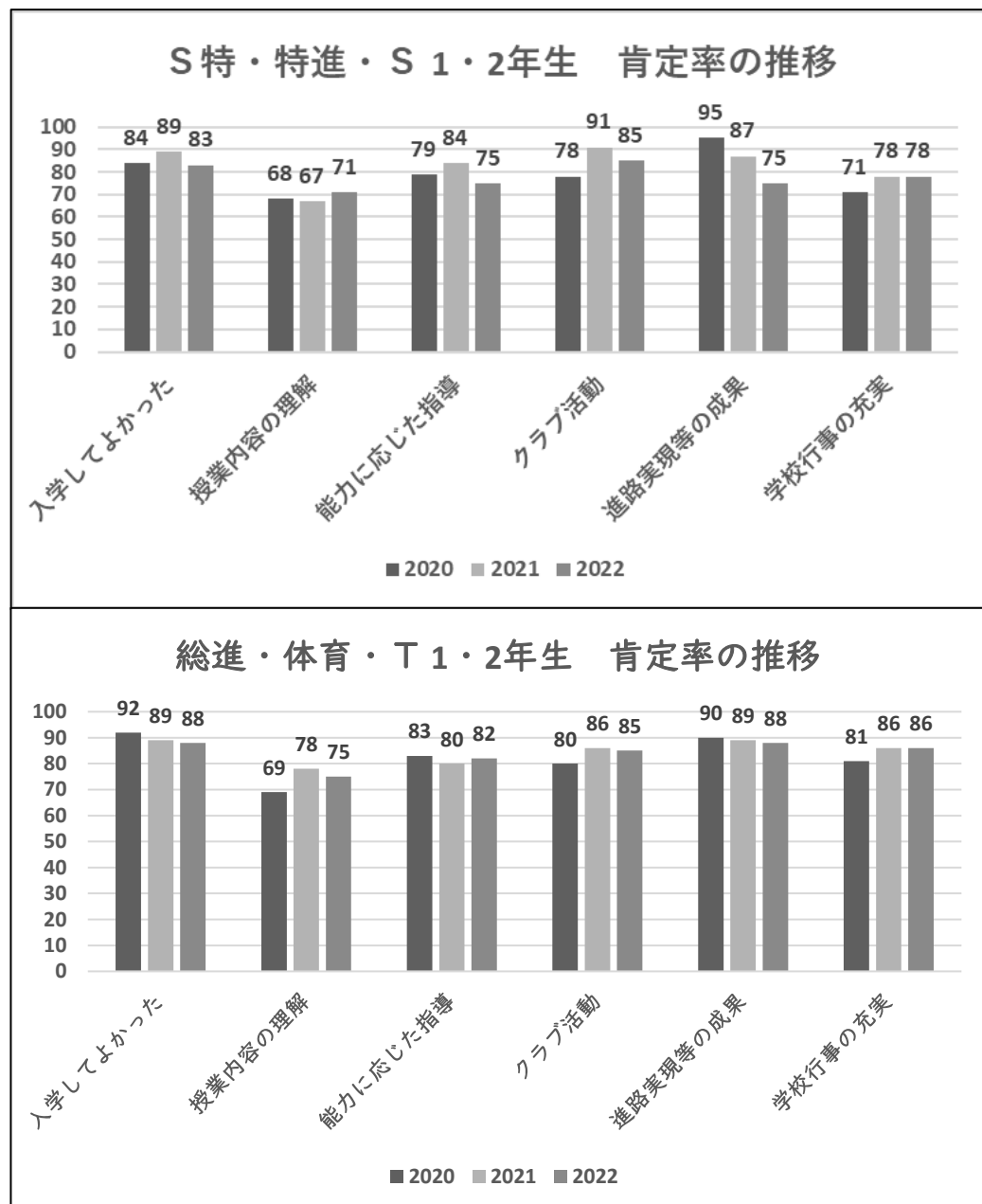
*質問項目（5）「授業内容の理解」の肯定率は、S 特・特進・S は前年度からは上昇した。教員が授業評価アンケートをもとに、ICT 機器やワイドプロジェクターなども活用しながら、授業改善に努めた成果が肯定率の上昇につながったと思われる。一方、総進・体育・T については、わずかであるが下がっている。教員が小テストなどを通じて日常的な授業の理解度を確認しながら、さらなる授業改善を図っていく必要がある。

*質問項目（8）「クラブ活動の満足度」については、S 特・特進・S の肯定率が低下したが、満足度としては高い数値を示している。これは本年も多くのクラブが全国大会出場を果たしたり、文化部でも数多くの賞を受けるなど、クラブ活動で大きな成果を収めたことの現れであ

る。生徒主体のクラブ運営を中心にすえ、一層のクラブ活動の充実を図っていきたい。

*質問項目(19)「進路実現等に向けた学力向上」の肯定率は、S特・特進・Sの生徒で大きく低下している。授業はもちろんのこと、平日の補習および長期休暇中の補習などのあり方を点検するとともに、校内予備校や放課後学習会も活用しながら、生徒自身が学力の向上を実感できるよう工夫する必要がある。

*質問項目(18)「学校行事の充実」は、ともに昨年と変化していない。本年度はコロナ禍のなかでも、十分な感染対策を行いながら、行事を確実に実施することができた。S特・特進・Sの行事についての満足度は高いとはいえないので、生徒の主体性を活かしつつ、すべての生徒が楽しめ、かつ学びのある行事が実現できるように改善していきたい。



3. 肯定率が70%以下だった質問項目（高校1・2年生徒・保護者別 今年度←昨年度）

S特・特進生徒は2項目（項目2・16）、 総進・体育生徒は0項目。

S特・特進保護者は0項目、 総進・体育保護者1項目（項目5）。

（2）「本校生であることの自信と誇り」 S特・特進・S生徒 64%←77%

（5）「授業内容の理解」 総進・体育・T保護者 68%←69%

（16）「教育目標・方針についての教員間の共通理解」 S特・特進・S生徒 65%←82%

＊「本校生であることの誇り」「教育目標・方針についての教員間の共通理解」について、S特・特進・Sの生徒の数値が大幅に低下している。すべての生徒が活力ある学校生活を送れるよう、生徒個々の有用感を高めていくための取り組みを工夫していく必要がある。またそれぞれの学年・教科の指導方針について、いま一度教員個々が確認するとともに、教科会議や定期考査の内容検討などの相談を日常的に行うことで、お互いに連携しながら教育活動を進める必要がある。

4. 総括コメント

本年度の「生徒による授業評価アンケート」は、専任教員を対象に1学期末と2学期末に実施した。その結果をふまえて実施した「授業評価アンケートに対する教員の意識と実態についての調査」をみると、ほとんどの教員が、「今回の授業評価アンケートの結果は、自らの授業改善に役立つと思う」と前向きに捉えている。なかでも「生徒の関心意欲を高めるための授業改善の必要」を課題にあげた教員が多く、課題解決に向けて積極的に教材研究、研修に取り組んでいきたいと回答している。こうした「授業評価アンケート」をもとに、ICT機器のさらなる活用法を研究し、すべての生徒の興味関心を喚起しながら、学力を伸ばしていく授業の実現をめざしていきたい。

大学進学については、岡山大学・兵庫県立大学をはじめとした国公立大学に、39名（内過年度生4名・防衛大学校5名を含む）が合格した。また私立大学については、東洋大学に18名、関関同立に31名（内過年度生2名）、産近甲龍に77名（内過年度生1名）と、難関大学にも多くの合格者を出すことができた。さらに就職については、学校推薦による内定率100%を達成し、ほかに専門学校へ進学する生徒を含め、総進・体育コースの生徒は、各自の希望に応じて多様な進路実現を果たしている。本校の生徒・保護者の大学進学希望数は年ごとに増えてきており、学力向上と進路実現に向け、本年度は国公立大学推薦プロジェクトを教員全体で組織したほか、AI教材を活用した放課後学習会や校内予備校を導入するなど取り組みを強化した。しかし放課後学習会や校内予備校については、十分な参加者を集めることができず、より効果的な取り組みとするための方法を検討していく必要がある。こうした進路指導体制について、学外の評価委員からは、国公立大学の合格者数を増やすために、「進路指導部主導であらたな東洋ブランドの構築をすすめるべき」とであるという提言をいただいている。次年度は、これまでプロジェクトチームで蓄積されてきた総合型・学校推薦型で国公立大学に合格させるためのノウハウを生かしながら、授業改善とともに放課後学習会や校内予備校を含めた補習・補講などのいっそうの充実を図ることで、一般入試も含めた国公立大学合格者の大幅増加をめざしたい。

クラブ活動では剣道部・柔道部・空手道部・卓球部・囲碁将棋部が全国大会に出場し、地域活性部は農林水産省「第6回食育活動表彰」など数多くの賞を受賞するなど、大きな成果をおさめた。これら以外にも、新コース制の導入などが評価され、2023年度高校前期入試の志願者は3837名を集め、4月には61期生として386名＋一貫60名の計446名が入学予定である。今年度の「授業評価アンケート」と「学校評価アンケート」の結果を全教職員が謙虚に受け止め、日々の授業の充実と改善に努めながら、東洋大学附属姫路高等学校のさらなる進化と飛躍をめざして取り組んでいきたい。

5. 2023 年に向けた課題

- (1) 本校の教育方針に基づき、各学年・コースの教育方針と年度目標に加えて数値目標を明確にする。
- (2) 学校評価における要請に加え、教員の授業力向上をめざし、授業公開日を設定する。
- (3) 共通テスト対策、私立・国公立二次試験対策などを含め、補習・講習のあり方を再構築する。
- (4) 高校1・2年生については、新コース制導入にともない作成したシラバスにそった教育を実践し、検証する。また高校3年生については、従来のシラバスにそった教育を実践・検証し、改善点を新コースの教育内容に反映させる。